

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

105

夏の企画展

恐竜時代のふくしま

—化石が語るふくしまの古環境—

福島県立博物館



夏の企画展

「恐竜時代のふくしま」

「化石が語るふくしまの古環境」

会期：二〇二二年七月一四日(土)から九月一七日(月)・祝まで



フタバズキリュウ頭骨（複製）
白亜紀後期 玉山層
いわき市大久町
福島県立博物館蔵



ニルソニオクレイダス ジャポニカス（ソテツ類）
（完模式標本）ジュラ紀後期 栃窪層
南相馬市鹿島区 鹿島歴史民俗資料館蔵
平宗雄氏採集



サブディコトモセラス チサトイ（アンモナイト）（完模式標本）ジュラ紀後期 中ノ沢層
南相馬市鹿島区 福島県立博物館蔵 鈴木千里氏採集

地球の長い歴史の中で、中生代は地球上で恐竜が大活躍していた時代です。福島県の太平洋沿岸に分布する相馬およびいわき地域の中生代の地層から、近年、恐竜をはじめとする脊椎動物・アンモナイト・昆虫・植物化石など、新種を含めた世界的に貴重な化石の発見が相次いでいます。展示では、これらの化石と化石を産する地層をもとに、恐竜時代のふくしまの生きものの姿や当時の環境を復元します。

全長一〇mを超えるマラウイサウルスや子育て恐竜として知られるマイアサウラなど、大型の恐竜の全身骨格も展示します。夏休みの期間、太古の世界をお楽しみください。

■展示構成

（１）中生代の生きものたち

中生代では、植物ではシダ類や裸子植物が、動物ではアンモナイトのほか、恐竜・翼竜・魚竜・首長竜などのハ虫類が繁栄しました。このコーナーでは現在の生物と異なる中生代の代表的な生物の化石を展示します。

（２）ふくしまの中生代化石

福島県の中生代の中で、たくさんの化石が発見されている太平洋岸の二つの地域の化石を展示します。

① 相馬地域の化石 — 相馬中村層群 —

相馬中村層群はジュラ紀中期～白亜紀初期（一億七〇〇万年～一億四〇〇万年前）に堆積した地層。この地層からは、最近新種とされた裸子植物やアンモナイトなどを始め、暖かい気候を示す豊富な化石が見つかっています。

② いわき地域の化石 — 双葉層群 —

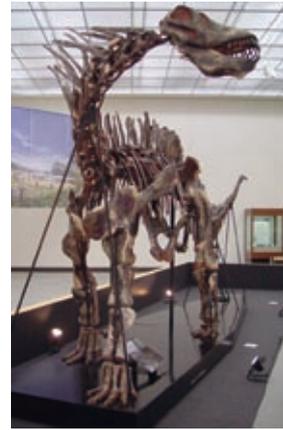
双葉層群は、白亜紀後期の今から八八〇〇万年～八四〇〇万年前に、当時の東アジアの大陸の沿岸部に堆積した地層。この地層からは、大型のアンモナイトや、有名な海生ハ虫類であるフタバズキリュウ、そして大陸に生きていた恐竜の化石が発見されています。



マラウイサウルス（竜脚類恐竜）白亜紀前期 アフリカ 国立科学博物館蔵 写真提供：富田幸光氏（国立科学博物館）



マイアサウラ（鳥脚類恐竜）白亜紀後期 アメリカ 国立科学博物館蔵 写真提供：小林快次氏（北海道大学総合博物館）



アマルガサウルス（竜脚類恐竜）白亜紀前期 アルゼンチン 群馬県立自然史博物館蔵 写真提供：群馬県立自然史博物館

(3) 東日本大震災による被災と標本のレスキュー
東日本大震災による福島県太平洋岸の被災状況、被災した文化施設の復興へ向けた努力や、標本のレスキュー活動について紹介します。

■関連行事

(1) 記念シンポジウム

「ジュラシックふくしま ―一億五〇〇万年前のふくしまの古環境―」

- ① 日時 平成二十四年七月二十八日（土）
午後一時三〇分～午後四時三〇分
- ② 会場 福島県立博物館講堂（入場無料）
- ③ 講師 公益財団法人深田地質研究所会長 佐藤正氏
財団法人自然史科学研究所主任研究員 大花民子氏
ミュージアムパーク茨城県自然博物館資料課長 滝本秀夫氏
いわき自然史研究会顧問 高橋紀信氏
福島県立博物館専門学芸員 竹谷陽二郎

(2) 記念講演会

- ① 日時 平成二十四年八月二十五日（土）
午後一時三〇分～午後二時四五分
- ② 会場 福島県立博物館講堂（入場無料）
- ③ 講師 東京学芸大学准教授 佐藤たまき氏

(3) 展示解説会

- ① 日時 平成二十四年七月二三日（日）
午後一時三〇分～午後二時三〇分
- ② 平成二十四年八月二五日（土）午後三時～午後四時
- ③ 会場 福島県立博物館企画展示室（企画展チケットが必要）
- ④ 講師 学芸員 竹谷陽二郎

企画展「小さなもの集まれ！」関連行事

講演会

「茅葺屋根の古民家に魅せられて」

三月一八日（日）に講堂で菅野清八さんの講演会「茅葺屋根の古民家に魅せられて」が行われました。菅野さんはまだ五〇代と、「茅葺」や「古民家」という語感から想像される人物像からははるかに若いので、みなさん驚かれました。その菅野さんは、普段普通に会話をしていることもきちんとエピソードを交えてお話になられるので、ついつい引き込まれて



講演会の終了後展示室で説明する菅野さん

しまいそうですが、講演会でもその魅力的なお話ぶりは変わらず、聴衆を魅了していました。どうして茅葺の古民家模型を作るようになったかという最初の出会いのところからスタートし、その後の苦労や屋根の素材についてなど、そしてついに全国すべての都道府県の模型を作って目標を達成するまで、話は尽きないほどでした。講演会の終了後は場所を企画展示室に移し、ご自分の作った模型を前にしてさらに具体的に話されていました。

ギャラリートーク

「雑道具、川内コレクションについて」

四月八日（日）に講堂と企画展示室で行われました。当初は展示室でご自分のコレクションを前に解説をしていたということだったのですが、参加



ギャラリートークで多くの人に囲まれる川内さん

予定確実な方々が五〇人を超えそうだということになって、このまま展示室では声も届かないし大混乱するだけではないだろうか、と川内さんご自身も心配なさってこのような形式をとることになったのでした。当日は講堂で、画像を見ていただきながら一時間ほどの解説をしていただき、その後場所を移してコレクションの雑道具を前にしてお話しいただきました。川内さんはご自分では集めながら調べてみたりただで素人ですとおっしゃるのですが、さすが収集することが研究につながり、モノ自体から得る情報がたっぷりの解説を聞かせてくださいました。一人でも多くの来館者に説明したいのでと、閉館時間ギリギリまで展示室に残って説明を続けていらっしかったです。

（民俗担当：榎 陽介）



展示室内のにぎわい

ふくしまの恐竜化石



コエルロサウルス類の足跡 ジュラ紀後期
栃窪層 南相馬市鹿島区 平宗雄氏蔵

Q…福島県にも恐竜が住んでいたのですか？
A…福島県では、平成八年に相馬中村層群研究会の平宗雄さんが、南相馬市鹿島区の林道に露出するジュラ紀後期の相馬中村層群栃窪層から、二本足で歩く肉食恐竜コエルロサウルス類のものとと思われる一つの足跡を発見しました。その後、同研究会の八巻安夫さんや荒好さんが、同じ栃窪層から恐竜の足跡化石を見つけています。栃窪層の化石は、現在までのところ日本で最も古い恐竜の足跡化石です。しかし、残念ながらこの地層からは恐竜の骨や歯の化石はまだ見つかっていません。

一方昭和六一年に、いわき地域に分布する白亜紀後期の双葉層群足沢層の礫岩層から、渡辺俊光さんによってハドロサウルス科の肉食恐竜の歯と頸骨（ヒロノリュウ）、瀧澤晃さんと押田勝男さんにより、肉食恐竜ティラノサウルスの仲間の脛骨（フタバリュウ）、同層



ヒサノハマリユウの歯 白亜紀後期 玉山層
いわき市大久町 いわき市教育委員会蔵

Q&A
回答者
自然担当
竹谷 陽二郎

群の玉山層から四足歩行の草食恐竜であるチタノサウルス科のものと考えられる歯（ヒサノハマリユウ）が相次いで発見されました。平成元年には、いわき市アンモナイトセンター建設地の足沢層から、ヒロノリュウと同じハドロサウルス科恐竜の頸椎（オオヒサリュウ）が見つかっています。最近では、平成一七年に、八巻安夫さんが、双葉層群笠松層の炭質層から竜脚類の歯の可能性が高い長さ3cm余りの一本の歯の化石を発見しました。このように、県土もかつては多彩な恐竜たちが生活する舞台だったことが明らかにされてきています。

Q…歯や骨など体の一部しか見つからないのはなぜですか？
A…残念ながら恐竜一体分全体の化石は見つかっていません。いわき地域で恐竜化石が発見されている地層はほとんどが河底や浅い海底に堆積したものです。陸上で死んだ恐竜が腐り、骨や歯など丈夫な部分だけが川などにより流され、砂や泥の中に埋まって化石となったためです。

Q…大陸から海を隔てた日本列島の東の端にある地層から、大陸に住んでいた恐竜の化石が見つかるのは不思議ですね。

A…恐竜の化石が見つかったジュラ紀や白亜紀の時代には日本列島はまだ存在せず、これらの地層は当時のアジア大陸の東の縁に堆積したものであります。現在の日本列島の岩盤が大陸から離れ日本海が誕生するのは、ずっとあとの新生代の新第三紀に入ってからです。ですからジュラ紀や白亜紀に大陸で生息していた恐竜の化石が、日本のその時代の地層から見つかるのも不思議ではありません。これからも福島県から恐竜の化石が発見されることが大いに期待されます。

今年の夏の博物館の企画展「恐竜時代のふくしま」では、これら恐竜の化石を一堂に集め展示します。ぜひご覧になって、恐竜が歩き回る当時のふくしまの姿を思い浮かべてください。



オオヒサリュウの頸椎 白亜紀後期 足沢層
いわき市大久町 いわき市教育委員会蔵

丹野家(尚古堂)考古コレクションについて

高橋 満 考古担当

一 当館で所蔵する個人の考古コレクションの一つに、震災を機に昨年度寄贈された伊達市(旧梁川町)の丹野家コレクションがある。

これは梁川町で魚問屋を営んでいた丹野栄七氏が、昭和四年(一九二九)から昭和一七年(一九四二)に五七歳で亡くなるまでの十数年間の蒐集品である。以後約七〇年に渡り同家で大切に保管されていた。

考古資料点数は約一、四〇〇点である。縄文時代後晩期の資料が中心で、主に旧伊達郡と福島市及び相馬地方そして宮城県南部の資料からなる。これに、地図類約七〇点(主に地形図)、考古学関係書籍・雑誌類約一四〇点と採集記録等約三二〇点が加わってコレクションを構成している。コレクションの整理作業は途中ではあるが、栄七氏が残した記録類から、独学による考古学への取り組みの一端を見ていきたいと思う。

二 資料目録は一〇巻あり、「尚古堂蔵品目録 土偶及特殊土製品」(昭和一二年)が巻の一の表題である。「尚古堂」とは収集品を納め、閲覧に会した場所をそう名付けたようだ。「尚古堂御来訪芳名録」が残されており、昭和七年一月二六日付で画家古川狄風氏の名刺が初頁を飾っている。

古川狄風氏は同好の士で、講演で梁川町を訪れていた時に突然店に現れたという。意気投合し、翌日には

一緒に遺物採集を行なったと記録にある。また拓本を教わったともあり、以後の記録類に拓本が登場するようになる。目録名が巻の六から「狄仙蒐集品目録」等に変わるのは狄風氏に因んで木南(俳号か?)から狄仙と号したことによる。

本目録の特徴は、遺物採集の場所を記した単なる地名表ではなく、遺物名と採集地、遺物の特徴、採集時のエピソード等が盛り込まれ、さらに遺物を模写した図が必ず付されていることである。また遺物の収納箇所も記入しており、索引の役割も果たしている。

模写図は線画に薄墨による陰影を加えた図であり、遺物の特徴を良く捉え、丁寧に描かれているものが土器の図に多い。また打製石器類も剥離の稜線を忠実に表現しており図だけで遺物との対応が可能である。氏は福島県が昭和二年に発行した「福島県発見石器時代土偶図版 三十九葉」を蔵書しているが、その写本を作成しており、書き添えることで遺物の図化方法を会得したのであろうか。

石鏃や玉類等の小型の遺物類は木箱に収納されているが、この木箱にも実物大の遺物の図と出土地名を記した紙片が添付されている。

目録巻の二の序文では「本巻所載の遺物は筆者親しく実地に就いて拾蒐せるものなれば、一個の偽造物なく、また出土地の正確なる事等は最も誇りとするところである」と書いてあり、資料管理の徹底を自負している。

なお前述の資料蒐集範囲も「本郡(伊達)を主として是に信夫、刈田、伊具、相馬等四周の地」の遺物を比較して「我地方に於けるこれらの一端を知る」という研究方針(目録巻の四)によることを表明していることも注目される。

三 ところで栄七氏には、昭和六七年(一九三二・三三)

から昭和一一年(一九三六)頃の「先史時代二於ケル阿武隈文化探査」、「夷のあし跡」、「竹の内発見石器時代遺物図録」などの著作がある。その中では、当時の中央学界でも「常識」であった、石器時代(縄文時代・先史時代)の一部と古墳時代(築塚時代)が、同時存在しているという記述が多く見受けられる。

一方でこの時期は、山内清男氏らによる縄文土器の実証的な編年研究が確立される段階に当たる。「常識」派と縄文土器の終末は列島内で大きな年代差を持たないとする「実証」派との対立が間近に迫った(所謂「ミネルヴァ論争」)時期でもある。

栄七氏の先史時代観形成に何が影響したのかという問題以上に、学界から離れた一地方に日本考古学史の一コマが失われずに残っていた事実は、考古資料の詳細な記録類とともに本コレクションの価値を高めるものである。



丹野家コレクションの注口土器(国見町竹ノ内遺跡)と「目録巻の三」の模式図

四 丹野家コレクションを始め、当館が所蔵する考古コレクションを紹介するテーマ展「ふるさとの考古資料 3 館蔵『九人のコレクション』展」が現在開催中です。是非御覧ください。会期は平成二五年五月二二日(日)まで。

テーマ展 けんぱくの宝2012

会 期：7月21日（土）～8月26日（日）
 会 場：常設展部門展示室 歴史美術
 観覧料：大人・大学生260円（常設展料金でご覧になれます）、小中高生無料

毎年恒例の「けんぱくの宝」展。けんぱくの代表的な美術工芸品から選んだ20数点が皆様をおまちしています。今年のテーマは「自然の恵み」。戦国時代の画僧・雪村が晩年に描いた「蔬果図」など美術工芸品の中に描かれた自然からの贈り物は、それらへの人々の感謝の気持ちの裏返しでもあります。初公開の作品も。ぜひご覧ください。



雪村筆「蔬果図」（福島県立博物館蔵）

秋の企画展 予告

会津の寺宝

会津の地には、古代から多くの寺社が建立され、そこに祀られた神仏は、たくさんの人びとの信仰を集めてきました。この企画展では、時代を超えて大切に守られてきた仏像や仏画、工芸品や古文書などを、「会津仏教の源流」「会津仏教の展開」「さまざまな信仰の遺品」「若松城下の寺社」などのテーマに沿って御紹介します。多彩な寺宝の数々を御覧いただきながら、先人たちの祈りや願いに共感していただくとともに、仏教や寺院という視点から、あらためて会津の歴史を見直していただくきっかけになることを願っています。

この企画展は、仏教の諸宗派のちがいを超えてつながる会津仏教会の創立百周年を記念して企画されました。同会の寺院の所蔵品に、特別出品を加えて展示します。また会期中には、講演会等さまざまな行事も予定しています。ぜひ御来館ください。（歴史担当 高橋 充）



木造十一面観音立像
 会津若松市 明光寺蔵 県重文

■会期 平成二十四年一〇月六日（土）～十一月五日（日）

企画展

夏の企画展

「恐竜時代のふくしまー化石が語るふくしまの古環境」
会期 7月14日(土)～9月17日(月)

◎夏の企画展関連行事

「恐竜時代のふくしま」展示解説会
日時 7月22日(日) 13時30分～14時30分
8月25日(土) 15時～16時

会場 福島県立博物館企画展示室
講師 学芸員 竹谷陽二郎

記念シンポジウム「ジュラシックふくしまー1億5000万年前のふくしまの古環境」

日時 7月28日(土) 13時30分～16時30分
会場 福島県立博物館講堂

講師 深田地質研究所会長 佐藤正さん
自然史科学研究所主任研究員 大花民子さん

ミュージアムパーク茨城県自然博物館資料課長 滝本秀夫さん
いわき自然史研究会顧問 高橋紀信さん
福島県立博物館学芸員 竹谷陽二郎

アクアマリンふくしま移動水族館「アクアラバン」
日時 8月25日(土) 10時30分～16時30分

会場 福島県立博物館中庭

記念講演会「フタバスズキリウ物語」
日時 8月25日(土) 13時30分～14時45分

会場 福島県立博物館講堂
講師 東京学芸大学准教授 佐藤たまきさん

テーマ展

※常設展料金でご覧になれます

「ふるさとの考古資料3館蔵『9人のコレクション』展」
会期 6月5日(火)～H25年5月12日(日)

「芸津絵」

会期 6月9日(土)～7月16日(月)

「けんぱくの宝2012」

会期 7月21日(土)～8月26日(日)

◎テーマ展開連行事

「けんぱくの宝」展示解説会

日時 7月29日(日) 13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館部門展示室「歴史・美術」

講師 学芸員 川延安直

ポイント展

※常設展料金でご覧になれます

「風船爆弾の気球」

会期 7月14日(土)～8月31日(金)

「郡山市熱海遺跡の縄文土器」

会期 7月24日(火)～平成25年3月3日(日)

「神官が記した幕末」

会期 7月28日(土)～9月28日(金)

「吊い」

会期 8月22日(水)～9月26日(水)

「相双地方の旧石器」

会期 9月11日(火)～平成25年3月3日(日)

ミュージアムイベント

※は要申込

大熊町の民話「布芝居」

日時 7月21日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

参加者 大熊ふるさと塾

夏休み映画会

日時 8月11日(土) 13時30分～16時

会場 福島県立博物館講堂

※ナイトミュージアム for KIDS
日時 9月15日(土) 17時～19時

会場 福島県立博物館 常設・企画展示室

木曜の広場

「老嫗茶話」を読む4

日時 7月19日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「老嫗茶話」を読む5

日時 8月16日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「老嫗茶話」を読む6

日時 9月20日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

○民俗講座

収蔵庫から2「わら人形」

日時 7月14日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 学芸員 佐々木長生

収蔵庫から3「根子町人形」

日時 9月22日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 視聴覚室

講師 学芸員 内山大介

○考古学講座

※縄文土器を作ろう1、2

日時 8月4日(土)、5日(日) 10時～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 学芸員 森 幸彦

※土器の野焼き

日時 9月23日(日) 10時～15時

会場 野外

講師 学芸員 森 幸彦

○自然史講座

※化石をさがそう

日時 9月8日(土) 8時30分～16時

会場 喜多方市

講師 学芸員 竹谷陽二郎

※化石標本を作ろう

日時 9月9日(日) 13時30分～16時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 学芸員 相田 優

○実技講座

※マタタビ蔓の四つ目ざる作り1・2

日時 7月7日(土) 13時～16時

7月8日(日) 9時30分～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 伝統技術保持者 菅家藤一さんほか

実演

昔語り2

日時 9月2日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 体験学習室

講師 語り部 山田登志美さん

指導者向け研修講座

※は要申込

※博物館利用指導者研修会

日時 8月17日(金) 9時30分～16時

会場 福島県立博物館 実習室ほか

講師 学芸員 古山智行ほか

やさしい展示解説

※展示解説員による常設展総合展示の案内です。

※毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

※要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。

※その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

8月21日(火) 県民の日

7月～9月の休館日

7月2日(月)・9日(月)・17日(火)・23日(月)・30日(月)

8月6日(月)・20日(月)・27日(月)

9月3日(月)・10日(月)・18日(火)・24日(月)